

# 家庭福祉センター活動報告

尾山 美奈子  
須之内 玲子

センターの主なる活動であるみどり学童保育クラブの今年度の状況についてまず明らかにすると、4月現在定員40名、在籍40名で、そのうち今年度4月新入会児は13名である。引越し、その他の事情で退会した後補充した途中入会児は8名である。クラブ児の分布状況は4月現在、興本小30、西新井小7、西新井第1小2、扇小1と4校に及んでいる。学年別状況は1年生13名、2年生17名、3年生10名である。途中入会児を含めた今年度新入会児21名20世帯の家庭の状況についてみると母子世帯1、父子世帯2、祖父母に育てられている1、残り16が普通世帯である。生活保護の受給状況は父子世帯のもの1が現在受給中で、過去に受給したことのあるものが2である。父親、祖父の職業は製造にたずさわる工員が4、清掃事務所や警察署に務める現業の地方公務員が4、テープ裁断所、甘栗業、牛乳小売業、時計のバンドやネジ製造業等の零細自営業が5、職人3、その他会社員2、運送の助手1など雑多である。月収は9万~10万円が6、5~6万円が5、最高のもので11万5千円、最低では2万円、3万5千円というものもある。2万円のもは父子世帯で子どもの世話をした残りの時間を時間給で働き、生保を受けている。母親の職業はパート勤務が圧倒的に多く10で、製造業の女工8、レジ、店員のパートが2である。その他自営の手伝い3、保険の集金1、安定した職業としては保育園の給食婦で地方公務員のもの1がある。母親の月収は2~3万円のもが殆んどである。病気で無職のものは2である。

学童保育活動において昨年同様に園外活動を組み入れるよう努めたが、ガニ釣りに親しんだ農業用水池、蓮池、水芹の田など、今年は埋め立てられたり農薬で汚染されたりして、さすがに都内としては恵まれた自然の姿も徐々に消えて行くのを感じさせられた。

校庭でのぼり棒から落ちて右肘付近を骨折、154日も通院した1年女子、骨折という事故は初めてであったが、生命を預る仕事の厳しさを改めて痛感させられたことであった。

2学期に興本小学校の担任教師からスーパーマケ

ットで万引をし、警察で補導された兄弟について相談を受け入会させる。特に兄の方は学級においてもかたくなで交友関係が殆んどなく暗い感じであったが、クラブに入って1、2カ月の間に著しく好転し、表情も明るく落着いて勉強するようになり担任教師も驚く程の成長を示した。その間の指導経過はここでは触れないが、このように顕在的な問題行動をもった子どもが途中入会した場合、クラブの生活が与える教育的効果が非常に明確に認識し得るものである。

8月25日にキャンプ・ファイヤー、12月22日にクリスマス会を開催し、いずれも約100名の参加を得た。当日はそれぞれ学生ボランティア、実習生などの協力を得、特にクリスマス会には元非常勤職員の副島由紀子氏、松本和子氏が出席された。

学童保育クラブ活動を支える一方の柱であり地域活動の組織でもある父母会は、本年度より私たちが全面的に取扱っていた父母会独自の補助金の管理を会長が担当することになり、組織的に一步前進した。また、足立区では3年生は定員未満の場合に限り在籍可能であるという問題を検討し、希望者が3年生までいられるように学童保育クラブを増設してほしいということ、及び指導員を現在の2名から3名にしてほしいという要求と合わせて、足立区学童保育連絡協議会とともに11月29日、12月6日に対区交渉を行い、陳情書を提出した。なお、父母会には必ず出席するなど熱心だった瀬下貞子氏が病身の夫と2人の子どもの抱えた過労から持病の高血圧症が急激に悪化して亡くなられ、副会長の小沢サダ子氏が証券会社の外交員としての勤務途上において、トラックに重量超過して積まれた鉄製建材の落下により頭蓋骨骨折で不慮の死をとげられたことは、誠に悲しむべき事件であった。貧困や高度経済成長の副産物である事故原因に深く考えさせられるものがあつた。

本年度に至り、社会福祉学科のカリキュラムにおいて、1年次に「社会福祉原理論I」が新設され、その中にセンターの見学実習が位置づけられることになった。この機会に、今までの見学実習の推移について述べておきたい。センターが現在地に移転した42年に

は社会福祉学科学生の個別の実習は行われたが、学年全体による見学実習は行われなかった。43年11月に現在使用している建物が落成し活動の本拠地を従来のプレハブより移転した段階で初めて同年12月2日、社会福祉学科2年生が施設見学を実施した。45年6月6日食物学科管理栄養士コース2年生22名が見学実習、「社会福祉概論」において社会福祉学科1年生が7月2日から11日までの延6日間に計62名が見学実習を行った。46年6月5日、前年度に引続いて食物学科管理栄養士コース2年生19名の見学があった。この年には、社会福祉学科1年生の見学は行われなかった。47年度は5月13日から7月1日まで毎土曜日延8日間にわたり社会福祉学科1年生全員93名、また2年生は、前年度1年次において見学実習が実施されなかったため見学実習が、6月23日から11月6日まで7日にわたり25名の参加で行われた。

本年度の見学実習は7月2日から11月2日まで延20日にわたり、「社会福祉原理論」受講者主として1年生計99名が参加した。見学実習終了後、その日の体験を交換し合い、疑問な点に答える方法をとった。施設見学前6月30日の原理論の時間にセンターの設置されている地域の状況、活動の主力である学童保育の内容、それに加えて見学実習に来た際学生が心得べき事柄について具体的に説明した。また、終了後には学科スタッフ全員の参加のもとに行われた実習を終えての討議で、限られた一日の見学実習の体験を個々のものから共有のものにし、具体的なことから発展させ社会福祉を考える方向で、直接指導に当たった専任職員の立場から総括をし、学生の質問に答えた。実習後に「児童福祉をやろうと思っていたが一日子どもと接して、やる気を失くしてしまった」と発言した学生もあり、実習指導の重要性を認識している。

個別の実習生は松本ゼミ2名(3年生)、内山ゼミ2名(3年生)を受け入れ、各12日間の実習を行った。前者は原則的に週1日とし、後者は実習期間の半分の1週を継続、その前後に週1回という方法をとった。全員が実習終了後、10月26日に合同反省会を行った。

4月の運営委員会で決定された“みどりのいえ勉強会”を6月2日、7月6日、10月6日に開催した。第1回は48年2月の父母会に続いて御協力を得て食物学科の武藤静子教授に“子どもの栄養”，第2回は佐藤進教授による“これからの経済とくらしの問題”，第3回は一番ヶ瀬教授の“子どもの遊びと遊び場”の

テーマでみどりクラブ父母、卒園児父母はじめ足立区内の学童保育指導員、保育所父母、その他地域の方々の参加を得て有意義に行われた。また、佐藤進教授はみどりクラブ父母会長島倉成子氏に依頼されて、9月22日足立区立西新井保育園において「勤労婦人をめぐる労働と社会生活の法」について父母向け講演をされた。

センターの責任者は本年度も松本教授が引続いて担当され、補助的な仕事を大友助手が受継がれ、父母会、行事にしばしば出席された。本年度のスタッフは私たち専任職員2人に加えて、非常勤職員として週3日を溝口有子氏、各1日ずつを青木牧子、袴田みつるの両氏が担当することになった。いずれも昨年度の卒業生である。学生ボランティアとしては立花みゆき氏(1年生)が5月23日より週1回、小熊昌子氏(4年生)は前年度の実習生であった今井真名子氏と共同で卒業論文のテーマに学童保育を選んだことから、実地に学童保育を体験する意味から5月7日より原則として週1回参加している。

学科スタッフとセンター職員により構成されている運営委員会は4月23日、5月14日、6月25日に開催された。現在当センターは大学の機関ではあるものの、位置づけが不明確であるとして明確化することや、専任職員の身分、専任の増員が大学理事会において検討されている。予算面においては独立した機関であるが、典野町セツルメントとして発足し、社会福祉学科の実習、研究機関として発展してきた歴史的背景や実際の活動の専門性故に運営面に社会福祉学科があたりこんにちに至っている訳である。他の大学に例を見ない特異な存在であり、特異な意義を有している当センターはその特異性故に理解されにくいものであるかもしれないが、位置づけの明確化が積極的な前進であることを願わずにはいられない。

(昭和49年1月記)